

1995年度日本気象学会総会議事録

場 所: 気象庁講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

日 時: 1995年5月16日15時25分～16時40分

参加者数: 出席179名, 委任状もしくは書面による出席714名, 合計893名

《総会成立の要件: 通常会員 (1995年5月15日現在3,945名) の5分の1 (789名) 以上の出席が必要であり, このうち, 委任状および書面によらない出席者は通常会員の25分の1 (158名) 以上が必要 (定款第38条).》

議 事:

1. 開会

大西晴夫庶務担当理事から総会成立の要件を満たしたことが報告され, 総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

満場の拍手で大会委員長の佐野幸三会員 (東京管区気象台) を議長に選出した。

3. 理事長挨拶

松野太郎理事長から概略以下のような挨拶があった。

「まず, 本大会をご準備, お世話いただいている東京管区気象台と気象庁海洋気象部の関係者の皆さんに感謝します。

天気予報の自由化や地球温暖化などの問題でみられるように, 最近は気象学と社会のつながりが非常に強くなってきています。気象学会としてこれらの状況にどのように対処していくかが重要な課題だと考えています。もちろん, 気象学会が社会の要請に応えることのできる中心は, 何よりも学問的な中味をしっかりしたものにしていくことです。気象学は中緯度の天気予報の研究から始まりましたが, 気象学の発展とともにそれが横に広がっていき, そのなかで様々な分野がお互いに影響しあって, より広い気象学の発展をうながしてきました。先ほどのシンポジウム「1994年の日本の夏」でも, 長期的傾向の話から力学, 数値予報など, いろいろな分野の話が聞けて大変おもしろいものでした。このような場でお互いに情報交換できることが大切だと思います。日本気象学会の大会は, 3日間通して全分野にわたるセッションを行うという特徴的な運営を行っています。外国や他の学会ではこのようなところは少なく, 大体, 分科会方式をとって専門家だけの小

きなグループで集まることが多いようです。当学会でも以前に分科会方式が検討されたこともありましたが実行されませんでした。このような大会運営のおかげで, 当学会では学会全体の学問的意見交換がよく機能しています。その一方で, このやり方にはプロとしての踏み込んだ議論を行ううえでは問題もあります。気象学会以外にも研究会などの場もありますが, プロとしての批判的な議論をする場を, 気象学会としてどのように保障していくかについても, これから考えていかねばならないと思います。

学会にとって社会とのコミュニケーションも大事な問題です。気象に対する社会一般の関心が高い割には, 気象学会の関心が社会的な方向にあまり向かっていません。これは, 学会の重要な構成員である気象庁がいろいろと社会に対して発言されることが多く, 学会は気象庁の影に隠れて表に出ない傾向があるように思えます。しかし, 気象庁は行政機関であるため, 新しい観点にたった発言などはしにくいと思われます。学会がそうしたところで, もう少し積極的に発言していく必要があります。先日の評議員会で, 学会にもっと多様な活動を期待する声が出ました。そのためには, まず理事会に幅広い層の人たちに入ってもらうなどして, 今の気象学会の外からの声を学会運営に反映できるような仕組みを作っていく必要があります。気象庁と大学関係者だけでやっていたのでは, その範囲で必要なことを考え, 実行して満足するトートロジー (類語反復) のようなことになってしまいます。これからは社会のいろいろなところから理事会などに入っただけ, 今まで気がつかなかったことで気象学会がすべきことをやっていきたいと考えています。」

4. 1995年度日本気象学会賞授与

学会賞候補者推薦委員会担当の廣田 勇理事が選定理由を報告。松野太郎理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。

本年度の受賞者とその受賞対象研究論文は以下のとおり。

中島映至会員 (東京大学気候システム研究センター)

「遠隔測定法による雲とエアロゾルの相互作用に関する研究」

5. 1995年度藤原賞授与

藤原賞候補者推薦委員会担当の小倉義光理事が選定理由を報告。松野太郎理事長から受賞者に賞状ならび

に賞金・メダルが授与された。

受賞者と受賞対象業績は以下のとおり。

田中正之会員（東北大学理学部）

「大気中の二酸化炭素の観測をはじめとする地球環境研究への多面的貢献」

6. 1994年度事業経過報告

大西晴夫庶務担当理事から、漸増傾向にある会員数の動向、機関誌の刊行状況、理事会等の会議開催状況、講演会・研究会の開催状況、支部活動の状況、秋季大会シンポジウムの国外参加者への旅費補助などの国際学術交流事業の現状などに関する報告が行われた。

7. 1994年度会計決算報告

斉藤三行会計担当理事から、部門別収支集計表などによって1994年度収支決算報告が行われた。管理費支出を収入比例で各事業に配分して部門毎に収支を見積もると、全体としては150万円程度の黒字決算であった。その内訳は、公益事業は若干の赤字で、収益事業で黒字となっている。学会の主要刊行物である『天気』出版は赤字、『気象集誌』と受託業務が黒字であったことなどが報告された。

8. 1994年度監査報告

高谷美正監事から、4月14日に行われた監査の結果、会計処理は適正に行われていると認められたことが報告された。また、OA機器の導入などで会費未収金がごくわずかとなったことなどが評価され、書籍の在庫処理などの改善が要望された。また、気象予報士制度の導入などによる気象学に対する国民の関心の高まりに対応して、『天気』の内容を一層親しみやすいものにするなど期待が述べられた。『気象集誌』の海外での購読者の大幅な拡大、『気象研究ノート』の刊行の活発化の必要性も述べられた。

引き続き、事業経過報告、会計決算報告、監査報告について議長が質疑・意見を求めたところ、部門別収支集計表の内容、計算方法について質問があり、理事会から説明が行われた。また、事業報告のなかの国際学術交流の内容の誤記が指摘された。こののち、採決の結果、事業報告の一部修正を含めて賛成多数で了承

された。

9. 理事の辞任にともなう追加選任

佐野昭理事（関西地区選出）および滝川雄壮理事（九州地区選出）の辞任にともない、日本気象学会細則第6条第11項の規定によって後任に加藤一靖会員（関西地区）および中山嵩会員（九州地区）の2名を推薦する旨の提案が松野太郎理事長からあり、採決の結果、総会としてこれを承認した。

10. 名誉会員の推薦

松野太郎理事長から、日本気象学会定款第6条第5項の規定にもとづいて、岸保勘三郎、藤田哲也、村上多喜雄、山元龍三郎の4氏を新たに日本気象学会の名誉会員に加えたいとの提案があり、採決の結果、総会として4氏を名誉会員に推薦することを承認した。

11. 1995年度事業計画案審議

大西晴夫庶務担当理事から、総会資料に基づいて提案が行われた。気象集誌で特別号、特集号を予定していること、気象研究ノートは6冊を刊行する予定であること、支部の講演会などに文部省の科学研究費からの補助を申請していること、1995年11月に開催される和達国際会議「地球環境と極域気候変動」に国際学術交流基金から補助を行うこと、第29期の気象学会役員選挙を行うことなどが提案された。

12. 1995年度予算案審議

斉藤三行会計担当理事から、総会資料に基づいて提案が行われた。受託研究1件が予定されており、引き続き収支均衡した予算であるとの説明があった。

引き続き、事業計画案および予算案について質疑・討論が行われ、特段の質問などがなかったために直ちに採決を行い、両案とも原案どおり採択された。

13. 議長解任

総会の議事運営に関し、佐野幸三議長から出席者の協力に感謝する挨拶があり、議長は解任された。

14. 閉会

大西晴夫庶務担当理事が、総会を閉会する宣言を行った。